

防災緑地を教材とした、防災教育の実施



福島県いわき建設事務所道路・橋梁課
技師 児山 裕成

～津波被災7地区の竣工を迎え、11歳の小学生に伝えること～

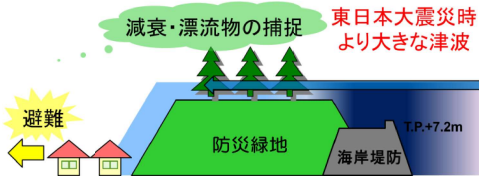
対象:いわき市立永崎小学校 5年生(25名)

1 防災緑地の概要

平成23年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震による津波で、いわき市沿岸部は甚大な被害を受けました。津波による浸水被害を受けた地域では、総合的な防災力の高いまちづくりを目指し、いわき市内では7地区で防災緑地を整備しました。

防災緑地は、下記の3つの機能を有した施設です。

- ① 防災機能(非常時)
- ② 地域振興機能(通常時)
- ③ 景観、環境の再生・形成機能(通常時)

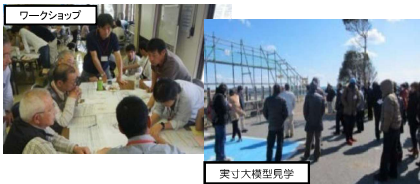


2 経緯・課題

H24冬 都市計画決定

H25春～ 各種調査設計

地域を巻き込んだ防災緑地計画の策定
⇒ 地域の方々と防災緑地の必要性・意義・役割を共有
… 地域と行政の協働により、防災緑地を守り育てていく関係を構築



H25秋～ 工事

- ・家屋基礎取壊し
- ・盛土
- ・植栽
- ・施設(園路、階段、四阿等)

ドングリプロジェクト
地域に植生しているDNAの再生
⇒ 小学生が、地域のドングリを採取し、苗木を育てて、防災緑地に植樹
… 子供達と一緒に育み、愛される防災緑地づくり



R元秋 竣工

令和元年10月9日 久之浜防災緑地 竣工
⇒ いわき市内全7地区の防災緑地が完成



地域に生まれ、地域に愛される防災緑地へ

維持管理活動への地域の参加

⇒ 防災緑地を創り、育て、守っていくため「防災緑地づくり協定」を締結
… 防災緑地の必要性・意義・役割を定期的に認識し合うことで、地域と防災緑地をつなげていく

3 防災教育の実施

1、小学生が抱いていた疑問

- 防災緑地事業(海岸堤防含む)に関すること
→ 事業期間、事業費
- 防災緑地の構造に関すること
→ 止められる津波の高さ、防災緑地と海岸堤防の違い
- 防災緑地に植樹した樹木や案内板に関すること
→ 植樹の理由、植樹した樹木の種類、成長過程(成長後の管理など)
→ 園路に示された矢印(サイン施設)の意味

木は川頁調に育っているの?
永崎小学校からの送付文より

2、講義と現地調査を交えた授業を実施



防災緑地の講義

→ 防災緑地の必要性、意義、役割を解説
→ 防災緑地の整備の困難さを理解
→ 小学生と期待する将来像を共有

現地調査

- 防風垣やマルチング材の解説
- 多重防御を担う防災緑地や海岸堤防の構造や機能を説明



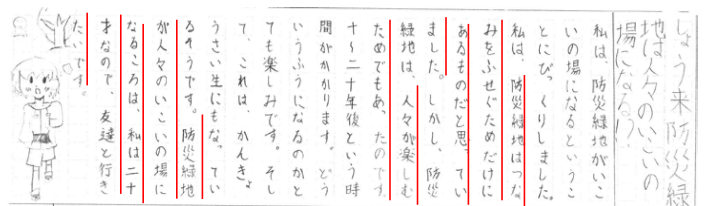
3、防災教育を終え、小学生から届いた言葉

- 樹木による津波威力軽減やサイン施設(案内板)の理解による防災意識の向上
→ 樹木が成長することで、津波の威力を弱める
→ サイン施設(案内板)は避難路を示す
- 四阿やベンチを利用した防災緑地の公園利用
→ 公園としてもっと使いたい
→ 20歳になった頃防災緑地を訪れたい
- 地元の里山から採取したドングリの成長の楽しみ
→ 樹木が成長し、緑豊かになってほしい
→ 樹木が成長したらどうなるんだろう。



4 おわりに

- 地域に生まれ、地域に愛される防災緑地にするには、次世代の主役(小学生等)の育成が不可欠である。
- 小学校に限らず、多数現地調査の依頼があることから、今後も地域に生まれ、地域に愛される防災緑地のあり方を検討していく必要がある。
- 防災意識の向上、公園としての利活用、地域の環境や歴史の継承のためにも、防災緑地の役割や機能を人から人へ伝達していくことも必要である(家庭内等)。



小学生から届いた防災教育の感想



小学生から届いた“防災緑地が賑わう様子”を描いたイラスト